

定例記者会見

日時 令和4年11月14日（月）
午後1時10分から1時45分まで
場所 市役所3階 大会議室

1 市長あいさつ

記者の皆様方には、日頃から越前市政の推進にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

午前中は、令和4年12月越前市議会定例会の全員説明会が開催され、提出予定議案等について説明しました。

12月補正予算については、コロナ禍における電力・ガス・食料品等が世界情勢の中で価格が高騰していることから、介護サービス事業所及び障がい福祉サービス事業所に対する支援などに必要額を計上しています。その他、8月4日、5日の大雨被害を受けました農地、日野川河川緑地駐車場等の国庫補助災害復旧事業や新型コロナウイルスワクチンの接種費用、ふるさと納税の増収見込みに伴う返礼品等に係る事業費を計上しています。

また、フェンシングの見延和靖選手が発起人となって取り組んでいる「折れ剣再生プロジェクト」について、11月18日から、見延選手と日本スポーツSDGS協会と私の3者で、東京銀座でガバメントクラウドファンディングを開始する記者会見を開催します。フェンシングの折れた剣を材料としてナイフなどに再生するという内容で、返礼品としてその剣で作った製品などをお渡しするというプロジェクトです。

一般会計の補正額は、8億3,292万1千円となりまして、補正後の一般会計予算総額は、補正前に比べ2.2%の伸びとなっています。

以下、内容について、この後ご説明を申し上げます。

記者の皆様方には、取材等のご協力をよろしく申し上げます。

2 発表項目

- | | |
|----------------------|-----|
| 1 令和4年度12月補正予算(案)の概要 | 資料1 |
| 2 越前市総合計画2023(案) | 資料2 |
| 3 マイナンバーカードの普及促進 | 資料3 |
| 4 オミクロン株対応型ワクチンの接種 | 資料4 |

【発表項目概要】

- | | |
|----------------------|-----|
| 1 令和4年度12月補正予算(案)の概要 | 資料1 |
|----------------------|-----|

主な項目について、資料1に基づいてご説明申し上げます。

まず、折れ剣再生プロジェクトについてです。フェンシングの剣が折れやすく、また、沢山折れるということで、かねてから見延選手がもったいないと思い、再生できないかと思っていたそうです。折れた剣をメダルやナイフ、タグなどの製品として再生し、それを返礼品とするというプロジェクトで、市内の武生特殊鋼材様、高村刃物製作所様の協力を得ることで折れ剣を再生することが実現しました。

11月18日から来年2月16日までの期間で300万円を目標金額に越前市がガバメントクラウドファンディングを行い、(一社)日本スポーツSDGs協会に寄付金を渡し、返礼品として越前打刃物の包丁やタグなどをお返しするという内容となります。

次に、介護施設等への物価高騰対策支援についてです。これまでも、農家の方への燃油・肥料などの高騰分の補助や、事業者への利益減少に対する補助、保育園の給食食材費や電気料金高騰分の補助など国の臨時交付金を活用した支援を行ってきましたが、今回は、介護サービス事業所と障害福祉サービス事業所に対する支援を、補正予算に計上しています。

これらの事業所は、市民生活に密着したサービスを提供しています。コロナ禍の中、施設の職員の皆様におかれましては感染者を出さない努力を日々されているところに物価高の影響も重なり、大変ご苦労されていることと思われるなか、今回の補正予算の支援で、引き続き、安定的なサービスを継続して行っていただきたいと考えています。

次に、農業施設補助災害復旧事業です。8月4日、5日の大雨被害を受けた箇所の災害復旧工事について、国庫補助を受けて行う工事の災害査定が終わりましたので、資料に掲載した3か所の事業費を、12月補正予算

で計上したところです。予算成立後、速やかに復旧工事を実施していきます。予算に関しては、以上です。

2 越前市総合計画2023（案）

資料2

概要については、資料のとおりですが、今回は「ウェルビーイング」を中心にしていることがポイントです。従来 of 幸福度は、国が定めて数値化して全国評価の基準を出すというようなタイプと、個人個人の満足度を基準とするタイプに分かれています。しかし、全国評価の基準が小さい町や市レベルの場合、市民の実感と遠いような項目もあります。主観的な満足度と組み合わせながら、ウェルビーイングというものを図っていきたいと考えています。これから項目を整備していかなければいけません、市に住んでいる人がこれからも住み続けたい、外に出ても帰ってきたいと思えるまちづくりを進めていきたいと考えています。

また、現在8万人の市の人口が、2040年には6万人になるという予測が出ていますが、10万人レベルの元気と活力を維持したいと考えています。総合計画では、10、100、1000という分かりやすい数字にしている部分もありますが、10万人というのは、今以上に活力を増したいという思いです。また、人生100年時代といわれる中で、若いころからの健康づくりや、高齢者のフレイル予防や市民の楽しみの場所など幸せな人生を送れるような姿を目指しています。また、災害なども含め、安心・安全に暮らせるまちを1000年先にも繋いでいこうという3つの目指す姿を描きながら、6つのテーマ、高い目標を掲げている12のチャレンジプロジェクト、さらに個別の政策を進めていきたいと考えています。

3 マイナンバーカードの普及促進

資料3

川端窓口サービス課長から資料3に基づき概要説明

4 オミクロン株対応型ワクチンの接種

資料4

山崎市民福祉部理事から資料4に基づき概要説明

3 質疑要旨

【質問】折れ剣再生プロジェクトは市の一般財源からの持ち出しはありま

すか。

【回答】 一般的に寄付を頂いた方には3割まで返礼品をお渡しすることができます。300万円の寄付金額を目標としているので、90万円程度は返礼品としてお返しする形となります。その300万円とは別にふるさと納税に係る予算が8億円ありますが、1億円補正して9億円にするという予算案を12月補正予算で出しています。このふるさと納税の返礼品の中からお返ししたいと考えています。300万円で受け取った寄付はそのまま(一社)日本スポーツSDGs協会にお渡しし、折れ剣の改修や加工にお使いいただきたいと考えています。従って市としてはふるさと納税の返礼品、発送等を含め150万円程度を考えていますが、寄付全体の中で見れば、頂いたふるさと納税の中からお返しをするので、一般財源の持ち出しはないということです。

【質問】 折れ剣再生プロジェクトに越前市が加わることでどのような効果が生まれると考えていますか。

【回答】 まずは越前市が誇るアスリートでオリンピックである見延選手の想いに共鳴するという点、次に越前市が誇る人という宝を発信したいという点、そして、越前市が誇る伝統工芸品の越前打刃物をこの機会に知っていただけるきっかけになるだろうと思っており、見延選手という発信力のある人の力を借りて越前市のブランディングを発信していく点の3点だと思っています。

【質問】 何本くらいの折れ剣を集めると製品ができるものでしょうか。

【回答】 折れ剣1本につき1本の刃物を作ることができます。しかし、非常に硬い材料であり、力を要するため大量生産はできないと聞いています。そのため、フェンシングの剣で作る返礼品の刃物については10本程度になります。また、普通の包丁を希望される方にはふるさと納税の返礼品にもありますので、商品を提示する中で寄付される方がチョイスしていただけるようにしていきたいと考えています。

【質問】 折れ剣はどのように回収していくのでしょうか。

【回答】 今、ナショナルセンターに東京近郊にいる強化選手が使用した剣で折れたものが100本程度あると聞いています。また、県内で

は武生商工高校などのフェンシング部が使用した剣で折れたものも出てきます。回収する経費も300万円の寄付金の中で、(一社)日本スポーツSDGs協会で活用して回収していただきたいと考えています。

【質問】 11月18日の都内での記者会見ではどのようなことを発信したいですか。

【回答】 SDGsという考え方に市も強く共鳴していくということと、折れた剣が目に見える形で、市が誇る800年の歴史がある伝統工芸品の越前打刃物に生まれ変わり、再び命をもらい使われるということの伝統の力、技の力、伝統の心をしっかりと伝えたいと思います。

【質問】 就任して1年経ちましたが手応えや進捗状況を教えてください。

【回答】 ちょうど1年前にたけふ菊人形のOSK日本歌劇団の千秋楽公演で挨拶をしたのが初舞台でした。先日、今年のOSK日本歌劇団の千秋楽公演を迎え、同じ舞台で挨拶をし、1年経ったと感慨深いものがあります。就任時から越前市には素晴らしい宝がたくさんあるとお伝えしてきましたが、特に新幹線がやってきて多くの人々が注目するこの機会にもっと多くの人に知ってもらい、この宝を磨いて発信していくことが大事だと言い続けてきました。就任直後にブランド、誘客、新幹線駅周辺プロジェクトチームを発足させ、新年度に向けての予算と組織を作りました。今年度に入ってから、市民との対話や意識調査、専門家や審議会の皆様のご意見などをお聞きし、総合計画の大方の素案ができつつあり、そこに私の思いも盛り込めたと思っています。これからはいよいよ新年度の本格的な予算となってきました。総合計画をベースに事業を組み立て、組織立てをし、さらに政策を進めていきたいと思っています。また、その中で、紫式部が大河ドラマになるという極めて嬉しく、驚きのニュースが入ってきました。これもブランディング、情報発信の極めて強い機運になると思っています。これらを最大限に活用しながら市の発信につなげていきたいと思っています。今は総合計画ができたばかりで、新しいプロジェクトはまさにこれからというところですが、1年間でやれたことに限りはありますが、

少なくとも半歩でも前に進められたと思っています。これらをさらに職員、市民のみなさんとさらに力を合わせて実現していきたいと強く思っています。やるべきことや課題はたくさんありますが、一つずつ乗り越えて実現したいと思っています。

【質問】 新幹線駅の周辺整備は順調に進んでいると考えてよろしいでしょうか。

【回答】 駅周辺に研究開発拠点を整備したいという事業があり、その用地の取得のお手伝いをしていますが、地権者のご理解を頂いている最中です。そこが一つクリアできれば、次世代交流拠点、商業機能、ホテル、その他様々なものがこれをきっかけに集積していくのではないかと思っています。その一歩目を何とか実現すべく、福井村田製作所や戸田建設、地元で応援してくださる方と力を合わせて何とか形にしたいと思っていますところでは。

【質問】 道の駅の登録伝達式を終えて一言お願いします。

【回答】 新幹線開業1年前というタイミングは、イベントや情報発信をするうえで良いタイミングだと思っています。道の駅のオープン予定の3月18日は新幹線開業のちょうど1年前頃であり、開業に向けて勢いが付きます。新幹線開業に関してはJRも含め様々なところでキャンペーンを行うと思いますが、それらと歩調を合わせながら手立てを講じ、イベントやキャンペーンをするということを発信すれば様々な材料もできますし、勢いを使いながら新幹線開業と結び付けていきたいと思っています。

【質問】 総合計画の素案を作っていく中で、越前たけふ駅周辺のエリアづくりの考え方として何か加わってきたものや整備されてきたものがあれば教えてください。

【回答】 コンセプトは地元の皆さんの合意で出来上がってきたものです。私もその合意の内容に沿って仕事を進めてきたところでは。一方で、それをどう具体化するかという部分はまだできていなかったもので、色んな企業等に諮って、そこで可能性が出てきたものを組み合わせしていくというのがこの1年間の作業だと思っています。その一つが研究開発拠点の候補地として頂いている福井村田製作所であり、市と商業機能を含めた次世代交流拠点が作れるのでは

ないかと思っています。さらに、ホテルを経営している企業にも出てきて、それを一つ一つ組み合わせてきたというところです。道の駅の前の広場については、単なる駐車場にするだけでなく若い人たちが集える、遊べるスペースにもしたいと思っています。絵を描いてそこにはめると言ってもプレイヤーがいなければできません。プレイヤーの可能性を見出しながら、組み立てていくという作業がこれまでの仕事でしたし、これからも具体化できるものを積み上げていくということになります。今までの経験から、このようにしていかないと実現できないと思います。龍田副市長にも動いていただき、感触を確かめて頂いていますので、これはいけそうだなというものを組み合わせていきたいと思ひますし、それを総合計画にも組み込んでいます。

【質問】 ウェルビーイングの考えについて、全国の一律の基準ではなく、地域に合わせていきたいという話でしたが、市として独自の指標を考えているのでしょうか

【回答】 市でも独自の指標を作りたいと考えています。ウェルビーイングの参考としましては、岩手県では研究が進んでいますし、荒川区も工夫をしています。また、富山県もウェルビーイング推進室を作っています。これまでにあった幸福度をより市民の実感に合わせていくといことは全国区の自治体で行っていることだと思っています。私たちの実感に近い幸福度の指標の選択をしなければいけないですし、指標に表れないものや統計ではつかめないものをどうやってつかむかという新しい技術を含め、客観的な統計指標と実感に近い満足度や希望などをどう組み合わせるかということ自体もチャレンジプロジェクトの一つだと思っています。年度末までにある程度考えて、さらにそれを深化させる必要があると考えています。